

大阪市における学校の概況

幼稚園の園児総数は5年連続で減少。私立在園者は2万5956人で生徒総数の約8割を占める。小学校の児童総数は6年ぶりにわずかに減少。市立の児童数は12万3259人で、区別でみると、9区で増加し14区で減少した。

中学校の生徒総数は増加に転じた。長期欠席者総数は4285人で、中学校生徒総数の6.5%で、そのうち不登校が約6割を占めている。

高等学校の生徒総数は19年連続で減少した。全日制では生徒総数は減少するものの、総合学科等を含む「その他」の学科が3年連続増加した。定時制では総合学科の増加が大きく4年連続で生徒総数が増加した。

大阪市の学校数、教員数及び在学者数（平成19年5月1日現在）

（単位：人）

区 分	学 校 数				教員数 (本務者)	在 学 者 数		
	総数	国立	公立	私立		総数	男	女
幼 稚 園	206	1	60	145	1,977	31,441	15,948	15,493
小 学 校	305	2	296	7	6,896	128,241	65,449	62,792
中 学 校	150	2	127	21	4,190	66,035	33,184	32,851
高 等 学 校	99	1	61	37	5,383	75,387	37,876	37,511
特別支援学校	13	1	12	-	1,145	2,068	1,271	797
専 修 学 校	168	-	3	165	3,014	63,233	30,603	32,630
各 種 学 校	38	-	1	37	256	6,647	4,312	2,335

在学者総数と人口の推移

大阪市では、近年在学在園者数が減少傾向にある。

学校種別在学者総数の推移「図1」をみると、小学校は昭和33年、中学校は昭和37年、高等学校は昭和40年にピークを迎えていたことがわかる。これは、推計人口と年少人口（0歳～14歳）の推移「図2」からみると、第一次ベビーブーム（昭和22年～24年）世代の子供が、それぞれ就学の時期を迎えたことによるピークであると考えられる。また、幼稚園は目立ったピークはないものの、昭和49年が最も多く、

これは第二次ベビーブーム（昭和46年～49年）世代の影響が大きいと推測できる。

大阪市の人口は昭和40年をピークに昭和58年まで減少している。その後、多少の増減はあったもののほぼ横ばいで推移し、現在は増加傾向にある。しかし、各学校の在学者総数は多少の増減を経て、昭和54年から各学校とも順を追うように減少している。これは、人口増加にもかかわらず大阪市の年少人口が減少傾向にあることが大きな要因と考えられる。

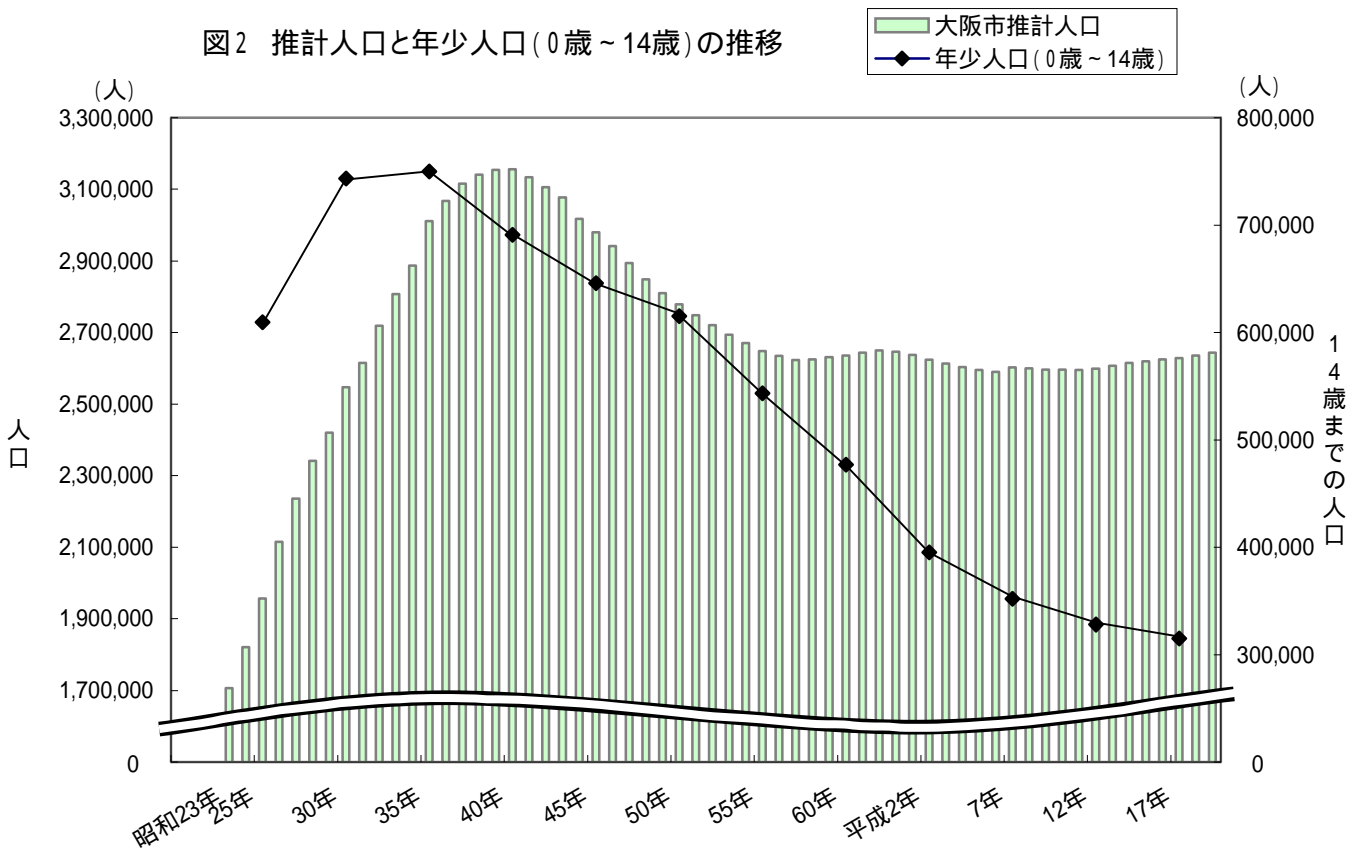
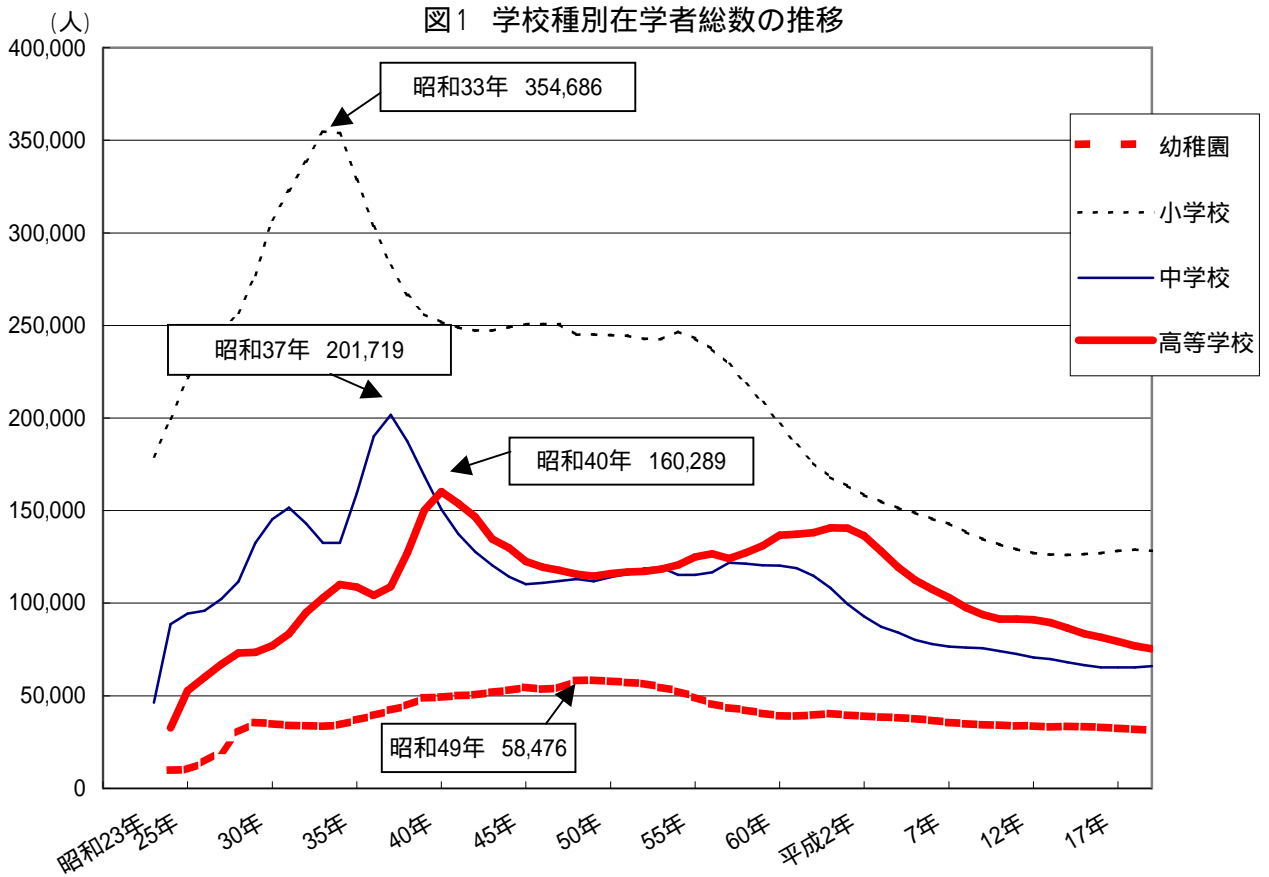


図1は、昭和23年の調査開始から現在に至るまでの在学者総数の推移を示したものである。

図2は、昭和23年から現在までの大阪市における推計人口と国勢調査における5歳階級別人口に基づく0歳から14歳までの年少人口である。